

駐大連北九州市経済事務所

◆所長 田代 昇三 ◆副所長 辛川 公浩  
◆副所長 呂 俐 ◆主任 劉 振傑

我が市に新たな一名の名誉市民が誕生

李万才大連市長、北九州市市長北橋健治に名誉市民の称号を授与

4月23日夜、フラマホテル会見場にて大連市長李万才より北九州市市長北橋健治へ、北九州市と大連市の友好協力への努力に謝意を示し、大連市名誉市民証書、メダル及び友情の門を開くための「金の鍵」が贈られた。北橋健治は名誉市民伝言簿に、「北九州と大連の友情、協力は永遠に」と記した。共産党委員会常務委員である曹愛華副市長、市人大常務委員会陳利民副主任、市政府関係部門の責任者及び北九州市政府関係部門の方々が授与式に参加した。

2012/4 大連晩報より抜粋

大連市は副省級市（日本での政令指定都市）であり、中国国内でも東北地区の玄関口として知られている。元来造船などの重工業で栄えた都市であり、現在も大連市内には様々な園区が設けられ、活気のある地域の一つと言える。

北九州市と大連市の関係は、1979年5月まで遡る。当時まだ大連市とは言わず旅大市と言われていた時代に友好都市を締結した。

両市の関係は33年と長いだけでなく、かなり深いものがある。中国国内でも「大連は中国国内一親日的な地域だ」と言われるように、親日感情が強く、日本語浸透率も随一である。これは歴史の変遷が関係していることも否めないが、当市が途絶えることなく親交を深めていたことも一つの要因と言えるであろう。

実際、大連市における「北九州市」の知名度、浸透度は想像を超えたものがある。大連では「初めて行った日本の地域は何処か」、との問いに対して、「北九州市」、と答える人々も多く存在する。日本では九州の一都市に過ぎない北九州市も、大連では立派な都市として認知されている。

以前より中国は「世界の工場」と例えられてきた。それに加え現在の経済発展の中、「世界の市場」へと変化してきている。勿論ここ大連も例外ではなく、生産ラインの進出といったものだけでなく、飲食店などのサービス産業の進出も後を絶たない。

現在大連に進出している北九州市の企業は17社に及ぶ。今後も増えていくものと想像（というよりも期待）しているが、その際、「我々は北九州市の企業である」ということは一つの武器となり得るのではないだろうか。



1979年 友好都市締結調印式の様子



2012年 名誉市民授与式